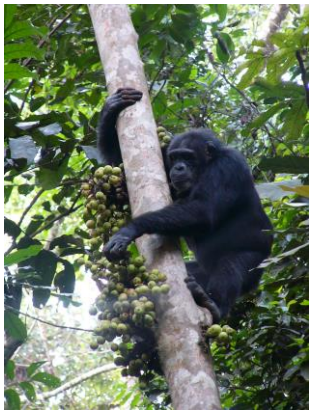
北高れくちゅあ 2017 －人類学リレー講義「*人類学への招待*」－

「野生チンパンジーから見た人類 －私たちにとって自然な食べ物ってなんだろう－」

9 月 30 日（土）14：00 ～

講師：山越　言　　京都大学大学院アジアアフリカ地域研究研究科　准教授

【講演要旨】



チンパンジーは、現在地球上に生きている生きものの中で最もヒトに近い種です。およそ 700 万年前のアフリカに住んでいた祖先種から分かれ、700 万年かけてヒトはヒトに、チンパンジーはチンパンジーに進化したと考えられています。ヒトがヒトになるあいだ、700 万年かけて形成された「人間性」について考えることは、現代に生きる私たちに多くの示唆を与えてくれます。また、そのためには、野生チンパンジーの「チンパンジー性」を知ることが大きな助けになります。

ひとつの例として、食べ物のことを考えてみます。現代人の食は文化、慣習等によりたいへん多様ですが、農業によって生産した穀物を中心に、肉・魚・野菜など多様な食物を食べる雑食であるといえるでしょう。しかし、よりよく生きるために何をどのように食べたらよいか、という問いに対しては、さまざまな考え方が乱立しています。昨今話題の「糖質制限食」では、ヒトが農業を始めたのはわずか 1 万年前であり、ヒトの身体は穀物の（過剰）摂取に適応していない、という進化的な議論が登場します。「チンパンジーと同じものを食べれば人は健康になれる」という過激な主張さえあります。西アフリカ・ギニアでのチンパンジーの調査から、ヒトの食の進化について概観し、いま、私たちが何をどのように食べるべきかについて考えてみたいと思います。

【講師プロフィール】

1969 年生まれ、長野県安曇野市出身。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、准教授。京都大学博士（理学）。西アフリカに生息する野生チンパンジーの行動・生態や保全状況を調査してきました。編著書に、『アフリカ潜在力 5　自然は誰のものか：住民参加型保全の逆説を乗り越える』京都大学学術出版会ほか。高校、大学時代は陸上部で走ってばかりの生活でした。